

会員だより

「テレワーク」でパソコン教室

今年（令和3年）になっても、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、私たちがパソコン教室も制限を受けながら、授業を実施していたところ、緊急事態宣言が発令されました。「密閉・密集・密接を避ける」、「人と人との距離の確保」、「マスクの着用」、「手洗いなどの手指衛生」などの基本的な感染対策の実施、同宣言に伴いパソコン教室の授業のあり方も変わりました。

公民館の会議用テーブルに1名のみ使用、窓を開け換気を保つて、マスクは必着など気を付けています。又、昨年度からSkypeによるリモート授業に切り替えて行っています。



この写真は、Skypeのチャットで、スナップショットしたものです。

トリミングして、顔をかくしました。
新型コロナウイルス感染症ワクチン接種が皆さんに接種でき、コロナが収まり、元の生活が取り戻せることを願っています。それまで皆さんパソコン教室頑張りましょう!!

辻丸 洋子

※Skypeは、マイクソフトが提供しているコミュニケーションツールソフトです。



宇登呂勝の懐かしい記憶

たしか兄が7歳、私が5歳頃だったと思う。

奄美大島の住用村石原で生まれた私の家には、宇登呂勝にミカン山があった（時代は昭和28年頃）。

島ミカンが80本以上、赤ミカンに文旦の木が数本、キヤミカンの木が3本ほど、そして、父があちこちに新たに挿し木で植えた苗木があった。

そのミカンの山に「ミカンを取って来い」と兄と二人で布で作った袋を持たされ取りに行かされた。

その当時の宇登呂勝への道と言えば人が一人通

れる程の道幅で木がうっそうと茂っていた。



現在の宇登呂勝への道

距離として2km程私は恐い恐いと思い乍ら兄の後を必死で歩いた。道端の山から水が流れ出て、その水の上をビチャビチャと音を出し乍ら歩いた。又小さな沢カニがウジヤウジヤいて私の足にまつわりつく、そのカニを何とも思わず、蹴飛ばしたり、足でグチャと潰したり、一生懸命兄について歩く。兄も何もしやべらず、ひたすら歩いている。きつと兄も恐かったんだと思う。

小さな川（この川に橋があったかは覚えていない）を渡り左側へ、ドンドン歩く、しばらく歩くと右側に広々とした畑が目につく、暗かった木々の間とは違い、太陽の光が気持ち良いほどとても明るく心が落ち着いている。

途中草やぶの生い茂ったその中にひよろひよろとした木が数本有りその木の上の方に2〜3個それぞれに実がなっていた。バンシロウである、家の庭に植えて有る緑色の小さなバンシロウの実では無く、薄黄色の大きなバンシロウの実である。兄は「そこにおれ」と言ってバンシロウの実を取りに行った。木は細くて高いので途中までしか登れない。木を揺すったり、その横に板で板垣を作ったので板垣に登り手を伸ばしたりしても簡単には取れない、しまいに何処からか枯れたキンチエ（竹）の枝を取ってきて突ついた。



実黄実の蕃石榴 (キミノバンシロウ)

根性である。1個落ちてきた。兄は「国ちゃんはこのかじれ」と言って一口だけ食べさせて後は全部自分が食べてしまった。「もつと食べたい」と泣いても、わめいても、睨めつけても無駄だった。布の袋を胸に両手で抱いて、変わらず兄のあとを

歩く。ミカンの山はもう目の前、川に丸太2本で橋の代わりにしていた。丸太を横歩きして左側の向こう岸に着いた。その場所がミカン山の入口である。



昔の畑にきれいな ロッジが2棟

今のミカンの木とは違い当時のミカンの木は太くて大きかった。兄は木に登り自分は「ミカンをとって落とすから、拾って袋に入れ」と。私は落ちてきたミカンを必死に袋に入れていた・・・。右足のスネのところは痛くて痒い、見ると黒の小さな小さな虫がひつついている。兄に大きな声で伝えると、降りてきてススキの葉でこすってくれた。それでも取れないそこにあつた石でやつても取れない。川に行つて平たいカミノソリの様な石をもつてきた。その石でこすつたらやつととれた。落ちた虫を兄は叩いて潰した。家に帰って分かった事だが、その虫はダニと言うことであつた。

兄もまだ小学校に入つたばかり。小さな手で懸命にダニをとってくれた。今思えばとても嬉しいこと、その時は言えなかつたけど「兄ちゃん有難う」と言う気持ちで一杯だ。

その兄は3年前67歳という若さでこの世を去ってしまった。兄との懐かしい思い出が宇登呂勝のこの地でよみがえり小さなあどけない私と兄に出会えた。11月が来たら私は70歳に・・・頭の中で幼い私と兄と今の私の年が交差して何故か涙が後から後から溢れ出て来る。時の流れの速さがとても悔しくて、

川の水は今も変わらずサラサラと流れている。私もこの宇登呂勝の川の流れるように変わらなず頑張って生きていかねば・・・。宇登呂勝というこの土地が私にまたやる気というパワーくれた。

記：平成30年1月



鶴頂欄 (カクチョウラン) 種子島以南に生息 (県外持出禁止)

與島 国子